

2025 WORLD ALL-STAR JOCKEYS



2025 ワールドオールスタージョッキーズ
公式パンフレット

8.23 SAT・24 SUN

JRA 札幌競馬場

出場騎手パーフェクトガイド

【特別インタビュー】

アンドレアシュ・シュタルケ騎手



2025ワールドオールスタージョッキーズ 完全ガイド

“夏の風物詩”として、また札幌競馬場のビッグイベントとして定着した「ワールドオールスタージョッキーズ(WASJ)」。2日間 にわたって行われる対象4レースの合計得点で争う個人戦に加え、WAS選抜(外国騎手・地方競馬所属騎手チーム)とJRA選抜

(JRA代表騎手チーム)によるチーム対抗戦も繰り広げられます。

なお、WASJの各レースでは、WAS選抜が赤褐色地、JRA選抜が紫紺地の「特別ゼッケン」を使用します。

名手の競演に、ぜひご注目ください!

2025 ワールドオールスタージョッキーズ 対象レース 札幌競馬場

8月23日(土)

第10レース 15:00発走

2025 ワールドオールスタージョッキーズ

第1戦 (国際騎手招待)

3歳以上 2勝クラス 1,200m(芝)

第11レース 15:35発走

2025 ワールドオールスタージョッキーズ

第2戦 (国際騎手招待)

3歳以上 3勝クラス 2,000m(芝)

8月24日(日)

第10レース 15:00発走

2025 ワールドオールスタージョッキーズ

第3戦 (国際騎手招待)

3歳以上 2勝クラス 1,700m(ダート)

第12レース 16:15発走

2025 ワールドオールスタージョッキーズ

第4戦 (国際騎手招待)

3歳以上 2勝クラス 1,800m(芝)

各レースの負担重量は3歳56kg、4歳以上58kg、牝馬2kg減。なお、南半球産馬の負担重量の減量は適用しない。

出場騎手

14名

WAS選抜

外国騎手
地方競馬所属騎手
7名

JRA選抜

JRA代表騎手
7名



JRA代表騎手の選定順位

- 順位1 本年の日本ダービー優勝騎手(JRA所属騎手に限る)
- 順位2 前年のJRA賞騎手部門「MVJ」受賞者
- 順位3 勝利度数東西各上位1名※
- 順位4 JRAの選考委員会で選出された騎手
- 順位5 勝利度数上位の騎手※

※2025年1月1日～6月22日までの勝利度数



出場騎手一覧

WAS選抜

外国騎手
地方競馬所属騎手
チーム

アレクシ・バデル



香港

フランシスコ・ゴンサルベス



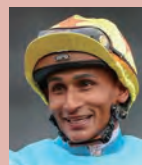
アルゼンチン

トール・ハマーハンセン



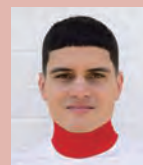
ドイツ

カリス・ティータン



香港

クリスティアン・トーレス



アメリカ

クレイグ・ウィリアムズ



オーストラリア

本田 正重



船橋

JRA選抜

JRA代表騎手
チーム

北村 友一



戸崎 圭太



坂井 瑠星



横山 武史



武 豊



横山 典弘



クリストフ・ルメール



騎手表彰順位の決定

騎手が騎乗した馬の着順により、右表のとおり点数を1レース毎に与え、その合計ポイントで順位を決定します。

着順	1着	2着	3着	4着	5着	6着	7着	8着	9着	10着以下
点数	30点	20点	15点	12点	10点	8点	6点	4点	2点	1点

※出走馬不足、出走取消、競走除外など、騎手本人の責任に関係なく騎乗できなかった場合は、6点が与えられます。また、競走中止の場合は、最下位と同じポイントが与えられます。

※以下のいずれかに該当する場合は、ポイントが与えられません。

- ・騎手本人の責任により騎乗できなかったとき
- ・騎手が騎乗停止以上の処分を受けたとき
- ・失格したとき

※同着の場合でも、着順に応じたポイントが与えられます。

騎手表彰

合計ポイントの上位3名に以下のとおり賞金を交付します。また、優勝者には賞品を交付します。

第1位 300万円およびトロフィー
第2位 200万円
第3位 100万円

チーム対抗戦

合計ポイントの多いチームに対し表彰を行い、賞品を贈呈します。

※JRAの騎手が外国騎手または地方競馬所属騎手の補欠騎手として騎乗する場合は、その騎手は「WAS選抜(外国騎手・地方競馬所属騎手チーム)」に含めることとします。

※両チームの合計ポイントが同点であった場合は、上位の着順を得た回数が多いチームに対し表彰を行い、賞品を交付します。

《2025ワールドオールスタージョッキーズ見どころ》



2024年WASJ第1戦



2024年WASJ第3戦



2024年第2位の武豊騎手と優勝のJ.モレイラ騎手



2024年WASJ総合表彰式

日本初騎乗の名手が魅せるか 連勝中のJRA選抜にWAS選抜が挑む

文=秋山響(TPC)

世界と日本のトップジョッキーがしのぎを削る「ワールドオールスタージョッキーズ」(WASJ)の大きな見どころは、日本での初騎乗を迎える名手の手綱さばき。今年は3人がこの日に初騎乗となるが、その中でも最も注目したいのはアルゼンチン代表のフランシスコ・ゴンサルベス騎手だ。

2011/12年に母国ブラジルのサンパウロ地区で見習いリーディングに輝き、その翌シーズンには総合リーディングの座に就いたゴンサルベス騎手はアルゼンチンに移籍後も16年、18~24年とここ7年連続を含む8度もアルゼンチンのリーディングと最優秀騎手に輝くスーパージョッキー(今年も首位を快走中)。サンパウロのダービーにあたるG1デルビーパウリスタ大賞とアルゼンチンのダービーにあたるG1ナショナル大賞をともに2度制しているほか、23年の年間541勝はアルゼンチンの史上最多記録となっている。

同じく初騎乗となるトール・ハマーハンセン騎手ドイツの若き名手(25歳)。騎手としてドイツやスウェーデンなどで通算1000勝以上を挙げたレナートを父に持つ同騎手は、昨年パドヴィウム

で制したG1独ダービーを含む74勝を挙げて初のドイツリーディングを獲得。今年も首位を走っている。

迎え撃つJRA代表騎手はWASJの優勝経験を持つ武豊騎手とクリストフ・ルメール騎手など強力なラインアップだが、要注目の存在と言えるのが初出場となる北村友一騎手。落馬負傷による1年以上にわたる戦線離脱から復帰し、今年クロワデュノールとのコンビで「ダービージョッキー」の称号を手にした苦労人の騎乗から目が離せない。

また、5月26日に金沢競馬場で行われた「地方競馬ジョッキーズチャンピオンシップ」で総合優勝を果たして地方代表の座を掴んだ船橋の本田正重騎手の騎乗も大いに楽しみだ。

なお、個人戦に加えて、出場騎手をWAS選抜(外国騎手・地方競馬所属騎手チーム)とJRA選抜(JRA代表騎手チーム)の2つのチームに分けて行われている対抗戦はJRA選抜が2015年の第1回から全て勝利。果たしてJRA選抜の連勝は続くのか、それともWAS選抜が一矢報いるのか。こちらの行方にも注目したい。

《プレイバック ワールドオールスタージョッキーズ》

2024年



優勝 J.モレイラ(ブラジル) 64点
2位 武豊(関西) 55点
3位 坂井瑠星(関西) 51点

チーム対抗戦
優勝 JRA選抜 237点
(武豊、坂井瑠星、C.ルメール、松山弘平、横山典弘、戸崎圭太、川田将雅)



2023年



優勝 岩田望来(関西) 56点
2位 R.キング(オーストラリア) 55点
3位 武豊(関西) 54点

チーム対抗戦
優勝 JRA選抜 235点
(岩田望来、武豊、C.ルメール、横山武史、坂井瑠星、戸崎圭太、川田将雅)

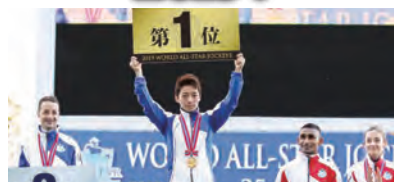
2022年



優勝 武豊(関西) 71点
2位 川田将雅(関西) 59点
3位 松山弘平(関西) 58点

チーム対抗戦
優勝 JRA選抜 284点
(武豊、川田将雅、松山弘平、柴田善臣、福永祐一、C.ルメール、横山武史)

2019年



優勝 川田将雅(関西) 70点
2位 C.ルメール(関西) 58点
3位 K.ティータン(香港) 53点
3位 M.ミシェル(フランス) 53点

チーム対抗戦
優勝 JRA選抜 246点
(川田将雅、C.ルメール、戸崎圭太、武豊、浜中俊、三浦皇成、藤田菜七子)

2018年



優勝 C.ルメール(関西) 72点
2位 武豊(関西) 59点
3位 M.デムーロ(関西) 40点

チーム対抗戦
優勝 JRA選抜 265点
(C.ルメール、武豊、M.デムーロ、田辺裕信、福永祐一、戸崎圭太、内田博幸)

2017年

優勝 E.ダシルヴァ(カナダ) 47点
2位 戸崎圭太(関東) 45点
2位 福永祐一(関西) 45点
チーム対抗戦
優勝 JRA選抜 238点
(戸崎圭太、福永祐一、武豊、C.ルメール、田辺裕信、内田博幸、M.デムーロ)

2016年

優勝 M.デムーロ(関西) 80点
2位 武豊(関西) 61点
3位 永森大智(高知) 47点
チーム対抗戦
優勝 JRA選抜 245点
(M.デムーロ、武豊、C.ルメール、蛭名正義、川田将雅、内田博幸、戸崎圭太)

2015年

優勝 J.モレイラ(香港) 56点
2位 武豊(関西) 50点
3位 戸崎圭太(関東) 30点
チーム対抗戦
優勝 JRA選抜 187点
(武豊、戸崎圭太、岩田康誠、福永祐一、横山典弘、M.デムーロ、柴山雄一)

WAS選抜



アレクシ・バデル

Alexis Badel

香港

- 生年月日
1989年12月5日
- 主な騎乗国
香港
- WASJ出場回数
2回目(2023年・5位)
- 今季成績(2024/25シーズン)
※7月16日終了現在
519戦31勝
- 近年の主な勝鞍
2021・22年チェアマンズプリントプライズ(G1)
2022年クイーンズシルバージュビリーC(G1)
2018年ジャンロマネ賞(G1)

出場コメント

2度目のWASJへの参加ができ、大変光栄です。札幌でたくさんの競馬ファンの皆様の前で騎乗できることを楽しみにしていますし、沢山勝利を挙げられるよう頑張ります。



The Hong Kong Jockey Club

2022年チェアマンズプリントプライズ(G1)

2度目のWASJ参戦となる
香港のトップジョッキー

父は1991年のジャパンCでマジックナイトに騎乗(2着)したアラン・バデル元騎手、母はフランス初の女性調教師であり2000年のジャパンCに管理馬レーヴドスカー(7着)を出走させたミリアム・ボラック＝バデル調教師という競馬一家に生まれる。

07年にフランスで見習騎手チャンピオンに輝くとともに、60勝を挙げてリーディングトップ10入りを果たす。15年には故アガ・カーン殿下のセカンドジョッキーとなり、104勝(リーディング7位)の成績を残した。

香港での初騎乗は16年12月、2カ月間の滞在で7勝を記録した。その後は毎年のように来港し、初めてシーズンを通して香港で騎乗した2020/21シーズンは自己最高の58勝(リーディング6位)を挙げた。

G1初制覇はフランスの18年ジャンロマネ賞。香港ではウェリントンとのコンビでチェアマンズプリントプライズ連覇を含むG1・3勝を挙げている。

23年のWASJで初来日。今夏は初めて短期騎手免許を取得して騎乗している。

WAS選抜



フランシスコ・ゴンサルベス

Francisco Gonçalves

アルゼンチン

- 生年月日
1990年4月8日
- 主な騎乗国
アルゼンチン
- WASJ出場回数
初出場
- 今季成績
※7月31日終了現在
1,043戦230勝
- 近年の主な勝鞍
2025年ラスアメリカス大賞(G1)
2024年サンパウロ大賞(G1)
エストレージャス大賞クラシック(G1)

出場コメント

世界中の多くの騎手の中からWASJに選出していただいたことを大変光栄に思っています。世界のトップクラスである日本競馬に初参戦し、優秀で、能力溢れる騎手らに挑戦するのが楽しみでなりません。まるで私の1つの夢が叶ったような気持ちです。



サンイシドロ競馬場/TIS

2024年エストレージャス大賞クラシック(G1)

アルゼンチンで8度リーディング
日本での初騎乗が叶う

ブラジルの北東部に位置する、ソブラル生まれの35歳。

2006年に騎手免許を取得する。2011/12年シーズンに母国のサンパウロ地区で見習いリーディングとなり、翌シーズンには総合リーディングタイトルを獲得した。

その後、アルゼンチンの著名調教師ホルヘ・ニールの目に留まったこともあり、13年にブエノスアイレスへ拠点を移す。移籍2年目の14年には212勝を挙げ、アルゼンチンの騎手ランキングで4位となり、早くも頭角を現した。

16年には初のリーディングタイトルを獲得。その後も18年から24年まで7年連続、同国で合計8度にわたってリーディングに輝いている。昨シーズンのアルゼンチンでの成績は2,083戦479勝。今年も7月31日終了現在で200を超える勝ち星を挙げ、8年連続の獲得に向けてリーディングの首位を走っている。

WASJには初出場となり、日本での騎乗も今回が初めてとなる。

WAS選抜 

トール・ハマーハンセン

Thore Hammer Hansen

ドイツ

- 生年月日
1999年10月17日
- 主な騎乗国
ドイツ
- WASJ出場回数
初出場
- 今季成績
※7月31日終了現在
258戦53勝
- 近年の主な勝鞍
2024年バイエルン大賞(G1)
独ダービー(G1)

出場コメント

以前から、ぜひ日本で騎乗したいと考えていたところ、WASJという素晴らしいシリーズにご招待いただき大変嬉しく、光栄に思っています。ヨーロッパでの経験を活かして、全力でレースに臨みたいと思います。



Racingphotos/TIS

2024年バイエルン大賞(G1)



昨年ドイツリーディングを初獲得 さらなる活躍が期待される若手

ドイツ・ケルン出身の25歳。

元騎手である父レナート・ハマーハンセンの影響もあって、2016年のデビュー直後から海外に渡り、フランス(A.ファーブル厩舎)およびイギリス(R.ハノン厩舎)で経験を重ねた。

その後、23年に母国であるドイツに本拠地を移すと、同年のシャーガーCでは、O.ペリエ騎手およびL.デットーリ騎手という名手とともにヨーロッパ選抜チームの一員として出場した。さらに翌24年には、豪快な大外一気を決めた独ダービー(パラディウム)、内ラチ沿いを突いて差し切ったバイエルン大賞(アシスメント)のG1・2勝を含む、年間74勝を挙げて騎手リーディングに輝くなど目覚ましい活躍を見せ、名実ともにトップジョッキーの仲間入りを果たした。

25年も7月31日時点で引き続きリーディングの1位をキープしており、2年連続となるタイトル獲得などのさらなる活躍が期待される。

日本での騎乗は、今回が初となる。

WAS選抜 

カリス・ティータン

Karis Teetan

香港

- 生年月日
1990年6月3日
- 主な騎乗国
香港
- WASJ出場回数
3回目(2019年・3位、2024年・5位)
- 今季成績(2024/25シーズン)
※7月16日終了現在
634戦44勝
- 近年の主な勝鞍
2025年クイーンズシルバージュビリーC(G1)
2022年クイーンエリザベスII世C(G1)
2021年チャンピオンズ&チャターC(G1)

出場コメント

3度目の出場で非常に光栄です。皆様の声援がいつも力になっており、今回も勝利に向けてベストを尽くします。競馬ファンの皆様に札幌競馬場でお会いできるのを楽しみにしております。温かいご声援よろしくお願いします。



The Hong Kong Jockey Club

2025年クイーンズシルバージュビリーC(G1)



香港での勝ち星は700を超える 3度目の参戦で初戴冠なるか

インド洋に浮かぶ島国モーリシャス出身の35歳。

14歳の時にマイケル・ロバーツ元騎手、ダグラス・ホホワイト元騎手などが卒業したサウスアフリカンジョッキーアカデミー(騎手養成学校)の門を叩いて2006年に南アフリカの騎手免許を取得し、2007/08年シーズンには見習騎手チャンピオンを獲得。その後も南アフリカで年間100勝以上を挙げるなどの活躍を見せた同騎手は、13年8月に香港ジョッキークラブに拠点を移した。

香港で初めてとなる2013/14シーズンでいきなり50勝を挙げ、リーディング4位となる。2024/25シーズンは香港通算700勝を達成したほか、G1クイーンズシルバージュビリーCなど3つの重賞勝ちを含む634戦44勝で、リーディング6位だった。

JRAでの騎乗は、16年に初めて短期免許を取得してから、通算成績は106戦10勝(7月31日現在)。

WASJには19年に初出場し、個人戦総合3位タイだった。今回は3回目の出場となる。

WAS選抜 

クリスティアン・トーレス

Cristian Torres

アメリカ

- 生年月日
1997年7月6日
- 主な騎乗国
アメリカ
- WASJ出場回数
初出場
- 今季成績
※7月31日終了現在
513戦60勝
- 近年の主な勝鞍
2024年チャーチルダウンスS(G1)

出場コメント

日本で騎乗できること、日本の文化に触れられること、そして世界中のトップジョッキーたちとともにレースに臨めることは、大きなモチベーションです。日本のファンの皆さんが競馬に注ぐ深い愛情と情熱は以前から知っていましたが、その熱気と興奮を実際に肌で感じることを、ずっと夢見ていました。



2024年チャーチルダウンスS(G1)

Valerie Torres



2024年にG1初制覇を達成 躍進を続ける米国の注目株

プエルトリコ出身の28歳。

2019年にキャリアをスタートさせ、見習い騎手としてガルフストリームパーク競馬場で成功を収めた。

22年12月から23年5月にかけてのオークローンパーク開催では、重賞初タイトルのレイザーバックハンデキャップやエセックスハンデキャップ(ともにG3)を含む100勝を挙げ、開催リーディングジョッキーとなった。なお、同競馬場でのシーズン100勝到達は殿堂入りしたバット・デイ元騎手以来のことであり、この期間の獲得賞金(616万3,941ドル)もレコードとなった。この23年はルーカスクラシックやフォーティナイナーS(ともにG2)も合わせて7つの重賞を制し、北米で164勝をマークし、賞金順のリーディングでも12位に躍進した。

24年5月には、ケンタッキーダービー当日の大観衆の中で行われたチャーチルダウンスSをガンパイロットで制して、初のG1タイトルを手中にした。

今回のWASJが、日本での初騎乗となる。

WAS選抜 

クレイグ・ウィリアムズ

Craig Williams

オーストラリア

- 生年月日
1977年5月23日
- 主な騎乗国
オーストラリア
- WASJ出場回数
4回目(2015年・7位、2016年・6位、
2022年・7位)
- 今季成績(メルボルン地区2024/25シーズン)
※7月31日終了現在
389戦67勝
- 近年の主な勝鞍
2024年ジ・エベレスト(G1)
2022年ドンカスターマイル(G1)
2019年メルボルンC(G1)

出場コメント

世界のベストジョッキーと競い、札幌競馬場の競馬ファンの皆様に素晴らしいショーをお見せすることを楽しみにしています。



2024年ジ・エベレスト(G1)



メルボルンのリーディングに9度輝く 日本での騎乗経験も豊富

オーストラリア・メルボルン出身。

父であるアラン・ウィリアムズ調教師の下、見習騎手として1993年にオーストラリアでデビュー。2000年に母国オーストラリアを離れ、05年までイギリス・ドバイ・香港で乗した。2005/06シーズンから2008/09シーズンまで4年連続、さらに2015/16シーズンから2019/20シーズンまで5年連続と、計9回メルボルン地区のプレミアシップ(リーディング)を獲得している。7月31日に終了した2024/25シーズンでは、ミスターブライトサイドとのコンビでG1・3勝を挙げ、またペラニボティナで芝の世界最高賞金額レースであるジ・エベレストを制するなど、充実のシーズンを過ごし、メルボルン地区リーディング2位の成績を収めた。

国際的な活躍も顕著で、10年の天皇賞(春)など日本のG1・3勝のほか、イギリス・フランス・香港・ドバイにおいてもG1を制している。

WASJには22年以來4度目の参戦。前身のワールドスーパージョッキーズシリーズを合わせると11度目の出場となる。

WAS選抜 

本田 正重

Masashige Honda

地方競馬代表

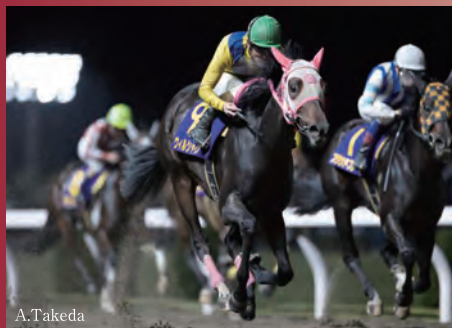
2025地方競馬

ジョッキーズチャンピオンシップ優勝

- 生年月日
1988年3月5日
- 所属
船橋・千葉県騎手会
- WASJ出場回数
初出場
- 今季成績 ※6月22日終了現在
385戦58勝(地方競馬のみ)
- 近年の主な勝鞍
2024年ローレル賞
東京湾C
ユングフラウ賞

出場コメント

出場を機に、名前を知らない方にも覚えてもらえるよう、良い騎乗ができるように頑張ります。



A.Takeda

2024年ローレル賞



逆転で出場権をつかんだ 船橋競馬の雄

東京都出身、1988年3月生まれの37歳。2005年に地方競馬の騎手免許を取得し、船橋競馬場・渋谷信隆厩舎所属でデビュー。15年、同調教師の引退に伴い千葉県騎手会所属となった。

13年、ナイトバロンで船橋の平和賞を制して地方競馬の重賞初制覇。17年にはJpnIのジャパンダートダービーを船橋のヒガシウィルウィンで制し、ダートグレード初制覇を達成した。23年浦和記念ではJRAのディクテオンでダートグレード2勝目をマーク。JRAでの騎乗は09年が初で、これまで26戦してまだ勝利はない。

2025地方競馬ジョッキーズチャンピオンシップでは、2戦目を終えた時点で前年の優勝者である園田の吉村智洋騎手がトップに立っていたが、最後の3戦目で見事に逆転。総合優勝を果たし、初のWASJ地方競馬代表騎手に選定された。船橋所属の騎手が出場するのは17年の中野省吾騎手以来、8年ぶりとなる。

これまで船橋競馬リーディングでは2位が3回、3位が3回。長年、頂点に君臨していた森泰斗騎手が引退して調教師に転身した今年、次代の船橋を担う覚悟に溢れた騎乗を見続けている。

JRA選抜 

北村 友一

Yuichi Kitamura

2025年

日本ダービー優勝騎手

- 生年月日
1986年10月3日
- 所属
関西・フリー
- WASJ出場回数
初出場
- 今季成績 ※6月22日終了現在
311戦34勝(地方・海外成績を含む)
- 近年の主なGI勝鞍
2025年日本ダービー
2024年ホープフルS

出場コメント

クロワデュノールが日本ダービーを勝ってくれたことで選定されました。以前から出場したいと思っていたWASJの舞台に立てるのはクロワデュノールの頑張りのおかげなので、そのことを胸に精一杯頑張ります。



2025年日本ダービー (GI)



大怪我を乗り越えて 日本ダービー制覇を果たす

滋賀県出身、1986年10月生まれの38歳。中学生の頃の乗馬体験をきっかけに騎手を目指して競馬学校へ。2006年に栗東・田島良保厩舎所属でデビューすると、この年、同期で最多の14勝で中央競馬関西放送記者クラブ賞を受賞した。

重賞初制覇は08年、シェーンヴァルトのデイル一杯2歳S。19年にはアルアインの大阪杯でJRA・GI初制覇を達成すると、秋にも秋華賞をクロノジェネシス、阪神ジュベナイルフィリーズをレシステンシアで制し、一躍トップジョッキーの仲間入りを果たす。その後もクロノジェネシスの宝塚記念、有馬記念勝ちなど活躍を続けていたが、21年5月2日、レース中の落馬で椎体、右肩甲骨、背骨などを骨折する大怪我を負ってしまう。長い治療とリハビリを経て復帰したのは、1年以上が経った22年6月のことだった。

復帰後、初のGI勝ちとなったのはクロワデュノールの24年ホープフルS。インタビューで号泣する姿は見る者の感動を誘った。そして今年、そのクロワデュノールで日本ダービーを制覇。馬を信じ、自分を信じて勝ちにいく騎乗を、デビュー20年目で初出場のWASJでも存分に見せつける。

JRA選抜 

戸崎 圭太

Keita Tosaki

2024年度JRA賞
騎手部門「MVJ」受賞者

- 生年月日
1980年7月8日
- 所属
関東・田島俊明厩舎
- WASJ出場回数
8回目(2015年・3位、2016年・12位、
2017年・2位、2018年・11位、2019年・5位、
2023年・10位、2024年・12位)
- 今季成績 ※6月22日終了現在
374戦60勝(地方・海外成績を含む)
- 近年の主なGI勝鞍
2024年有馬記念
皐月賞
2023年安田記念
ヴィクトリアマイル

出場コメント

初めて一緒に乗るような外国人騎手をはじめ、一流が揃うWASJは毎年目指しているイベントでもあり、楽しみです。優勝を目指すのは当然として、ファンの皆さんに喜んでもらえるような騎乗ができるように頑張ります。



2024年有馬記念(GI)



MVJを最多タイの5度受賞 近年は国内外のGI制覇も

栃木県出身、1980年7月生まれの45歳。98年に地方競馬の騎手免許を取得し、大井競馬場・香取和孝厩舎所属でデビューすると、11年目の2008年から5年で4度の地方競馬全国リーディングを獲得。08年にはフリオーソのダイオライト記念でダートグレード初制覇を果たすなど、地方競馬のトップ騎手に上り詰めた。また地方競馬で活躍する傍ら、JRAのレースにも積極的に参戦。11年安田記念ではリアルインパクトに騎乗し、JRA・GI初制覇を達成した。

13年にはJRAの騎手免許を取得し、美浦・田島俊明厩舎所属で騎乗を開始。翌年の14年から3年連続で全国リーディングに輝く活躍を見せた。ジェントルドンナやストレイトガール、ソングライン、ジャスティンミラノ、レガレイラなどで大レースも次々と制覇。今年はダノンデサイルのドバイシーマクラシックで、自身初となる海外G1勝手を成し遂げた。

勝利数、勝率、獲得賞金、騎乗回数の総合得点で決定するJRA賞MVJは、昨年を含めこれまで最多タイの5度受賞。WASJには第6回を除き毎回出場しており、今回が8回目の参戦となる。

JRA選抜 

坂井 瑠星

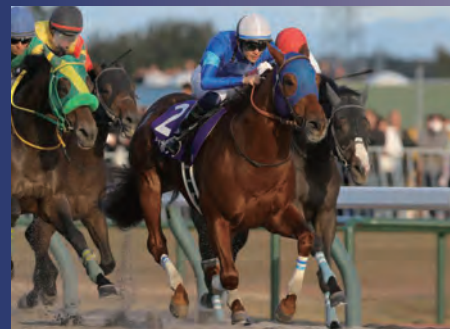
Ryusei Sakai

勝利度数関西1位

- 生年月日
1997年5月31日
- 所属
関西・矢作芳人厩舎
- WASJ出場回数
3回目(2023年・9位、2024年・3位)
- 今季成績 ※6月22日終了現在
367戦61勝(地方・海外成績を含む)
- 近年の主なGI勝鞍
2024年チャンピオンズC
高松宮記念
2023年チャンピオンズC
フェブラリーS

出場コメント

WASJに出場することが毎年上半期の目標で、今年も出場できて嬉しく思います。楽しみながらトップジョッキーたちといいレースをしたいです。昨年は最終戦を勝てば優勝という状況で、2着で総合3位。今年は優勝目指して頑張ります。



2024年チャンピオンズC(GI)



世界各国のG1で活躍 リーディング獲得も狙う

東京都出身、1997年5月生まれの28歳。父は大井競馬の名騎手で、現調教師の坂井英光。叔父に笠松競馬の元騎手、坂井薫人がいる。

2016年に栗東・矢作芳人厩舎所属でデビューすると、関西の同期でトップの25勝を挙げて中央競馬関西放送記者クラブ賞を受賞。2年目の11月からは一時帰国を挟みながらオーストラリアで騎乗し、約1年で16勝をマークした。

帰国後はデビュー4年目の19年にノーワンのフィリーズレビューで重賞初制覇。22年にはスタンینگローズの秋華賞でJRA・GI初制覇を達成すると、約2カ月後にはドルチェモアで朝日杯フューチュリティSを制してみせた。

以降もレモンポップやマッドクールでGI勝利を重ねる傍ら、世界の舞台でも活躍。バスラットレオンやシンエンペラー、そしてフォーエバーヤングで数々の海外重賞を制し、愛チャンピオンSやケンタッキーダービーといった世界の頂点と呼べる舞台で上位争いを演じている。

昨年は115勝で全国リーディング4位と躍進。今年は6月22日現在、勝利数で関西トップに立つ。WASJは3年連続3度目の出場となる。

JRA選抜 

横山 武史

Takeshi Yokoyama

勝利度数関東1位

- 生年月日
1998年12月22日
- 所属
関東・鈴木伸尋厩舎
- WASJ出場回数
3回目(2022年・13位、2023年・8位)
- 今季成績 ※6月22日終了現在
372戦56勝(地方・海外成績を含む)
- 近年の主なGI勝鞍
2023年皐月賞

出場コメント

去年は出られませんでした、今年は期間内の最後のレースに勝って出場が決まったので嬉しい限りです。JRA選抜の中では最年少になりますが、経験値のある人たちに負けないよう、持っている力を出して優勝を狙います。



2023年皐月賞(GI)



関東リーディングの常連 地方・海外でも結果を残す

茨城県出身、1998年12月生まれの26歳。父に横山典弘騎手、6歳(6学年)上の兄に横山和生騎手というジョッキー一家に育ち、父の姿を見て幼少時より騎手を目指す。

2017年に美浦・鈴木伸尋厩舎からデビューすると、3年目の19年にリオンリオンで日本ダービー初騎乗。20年にはウインマリリンのフローラSで重賞初制覇を達成し、年間94勝で関東リーディングジョッキーに輝いた。22歳での獲得は、67年郷原洋行騎手の23歳を53年ぶりに更新する関東リーディングの最年少記録となった。

GI初制覇は21年、皐月賞のエフフォーリア。この年は同馬で天皇賞(秋)、有馬記念も勝利した他、タイトルホルダーの菊花賞、キラーアビリティのホープフルSとGI・5勝を挙げた。23年にはソールオリエンで皐月賞を勝利。また24年にクラウンブライドでコリアC、今年はナチュラルライズで羽田盃、東京ダービーの3歳ダート二冠を制するなど、その活躍の場は年々、広がっている。

関東リーディングは20、21、23年と、ここ5年で3度獲得。今回のWASJは、関東勝利度数1位での選定となった。通算では3回目の出場となる。

JRA選抜 

武 豊

Yutaka Take

選考委員会で選出

- 生年月日
1969年3月15日
- 所属
関西・フリー
- WASJ出場回数
9回目(2015年・2位、2016年・2位、2017年・5位、2018年・2位、2019年・6位、2022年・1位、2023年・3位、2024年・2位)
- 今季成績 ※6月22日終了現在
253戦34勝(地方・海外成績を含む)
- 近年の主なGI勝鞍
2025年宝塚記念
2024年ジャパンC
天皇賞(秋)

出場コメント

今年もこのシリーズに選んでいただき、光栄です。実力ある海外のジョッキーたちが参戦してくれるので、迎える日本勢としても、全力を尽くして良いレースをお見せしたいと思います。自分も優勝を目指し、頑張ります。ぜひ、お楽しみください。



2025年宝塚記念(GI)



無人の野を行く名手 2度目のWASJ優勝なるか

京都府出身、1969年3月生まれの56歳。父は名騎手として知られた元調教師の武邦彦。弟の武幸四郎も元騎手で、現在は調教師。

87年に栗東・武田作十郎厩舎からデビューすると、当時の新人の最多勝記録となる69勝をマーク。2年目に関西リーディング、3年目には全国リーディングを獲得し、以降は通算18度の全国リーディング、9度のJRA賞騎手大賞(勝利数、勝率、賞金獲得でトップ)に輝いている。

GI初制覇は2年目の88年、スーパークリークの菊花賞。以降、オグリキャップ、メジロマックイーン、ディープインパクト、キタサンブラック、ドウデュースなど数多くの名馬で大レースを制し、今年のメイショウタバルの宝塚記念でJRA・GIは84勝目となった。

保持する騎手の記録は枚挙に暇がなく、今年目は黒記念をアドマイヤテラで制し、自身の持つデビューからのJRA重賞連続年勝利記録を39年に更新。通算4586勝(6月22日現在)は、まさに無人の野を行くがごとく、今も更新中だ。

WASJには過去8回すべて出場し、2022年の第6回には個人戦総合優勝。昨年も2位となっている。

JRA選抜 

横山 典弘

Norihiro Yokoyama

選考委員会で選出

- 生年月日
1968年2月23日
- 所属
関東・フリー
- WASJ出場回数
3回目(2015年・10位、2024年・9位)
- 今季成績 ※6月22日終了現在
166戦23勝(地方・海外成績を含む)
- 近年の主なGI勝鞍
2024年日本ダービー

出場コメント

一生懸命、競馬に乗り続けて40年目。今年はそのご褒美で競馬功績者表彰を授かり、さらに、この名誉あるWASJにも選出していただきました。感謝以外の言葉を見つめるのが難しいほどのです。シリーズでいい結果を出して恩に報いたいです。



2024年日本ダービー (GI)



昨年は最年長でダービー制覇 史上初の親子出場に

東京都出身、1968年2月生まれの57歳。父の横山富雄、兄の横山賀一は元騎手。叔父に元調教師の奥平真治。義弟の菊沢隆徳は元騎手で現調教師。息子の横山和生、横山武史、甥の菊沢一樹は現役騎手と、一族はまさに競馬一家。

86年に美浦・石栗龍雄厩舎所属でデビューすると、3年目の88年にソダカザンのウインターSで重賞初制覇。90年にはキョウエイタツのエリザベス女王杯でGI初制覇を達成した。以降、メジロライアン、トロットサンダー、サクラローレル、ゴールドシップなどで数々の大レースを勝利している。2024年にはダノンデサイルで通算3度目の日本ダービー制覇。56歳3カ月4日での勝利はJRA重賞、GI、日本ダービーの最年長勝利記録をすべて更新するものとなった。

関東リーディングは通算4度獲得し、10、12年にはJRA賞最高勝率騎手を受賞。通算2978勝(6月22日現在)は武豊騎手に次ぐ歴代2位となっている。今年4月には競馬の発展に貢献したとして農林水産省の第4回競馬功績者表彰の表彰者となった。WASJは昨年に続き3度目。横山武史騎手とは史上初の親子同時出場となる。

JRA選抜 

クリストフ・ルメール

Christophe Lemaire

勝利度数上位

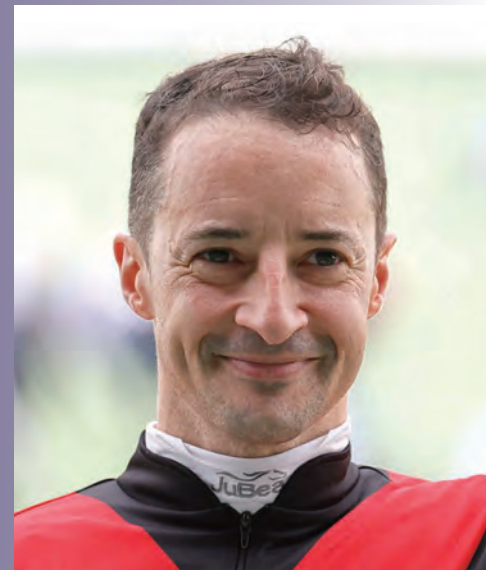
- 生年月日
1979年5月20日
- 所属
関西・フリー
- WASJ出場回数
8回目(2016年・7位、2017年・6位、2018年・1位、2019年・2位、2022年・10位、2023年・6位、2024年・4位)
- 今季成績 ※6月22日終了現在
239戦61勝(地方・海外成績を含む)
- 近年の主なGI勝鞍
2025年ヴィクトリアマイル
2024年菊花賞
秋華賞
オークス

出場コメント

今年もまたこの国際的なイベントに参加できることを嬉しく思います。世界のトップクラスの騎手たちと競い合い、競馬を盛り上げたいと思います。応援よろしくお願いします。



2025年ヴィクトリアマイル (GI)



歴史的な名馬と幾多のGI制覇 昨年は2度目の騎手大賞獲得

フランス出身、1979年5月生まれの46歳。父は障害で活躍した元ジョッキー。16歳でアマチュア騎手として騎乗を開始し、高校に通いながら名門アンドレ・ファール厩舎で働いて腕を磨き、99年にプロの騎手免許を取得した。

2003年からはフランスリーディング上位の常連となり、ディヴァインプロポーションズの05年仏1000ギニーや仏オークス、スタセリタの09年仏オークスなど大レースを制していく。一方で若い頃からアメリカ、ドバイ、インドなど外国での騎乗経験も積み重ねており、日本では02年から短期免許での騎乗を開始。05年有馬記念ではハーツクライでディープインパクトを破って勝利し、JRA・GI初制覇を達成した。

15年、JRA騎手免許を取得して通年での騎乗を開始すると、レイデオロ、アーモンドアイ、グランアレグリア、イクイノックスなどで次々と大レースを制覇。全国リーディングは7度、JRA賞MVJは5度、JRA賞騎手大賞(勝利数、勝率、賞金獲得でトップ)は2度獲得している。

WASJはこれで第2回から8回連続の出場。18年の第4回には個人戦総合優勝を飾っている。

【特別インタビュー】 アンドレアシュ・シュタルケ 騎手 28年越しの夢が叶って



今年のオークスで悲願のJRA・GI初制覇を成し遂げたアンドレアシュ・シュタルケ騎手。1997年に初来日を果たすと、2013年以降は短期騎手免許でたびたび騎乗し、日本のファンにはすっかりお馴染みの存在だ。今回、日本で印象に残る馬や、4度出場したワールドスーパージョッキーズシリーズの思い出などを語ってもらった。

取材・文＝橋本樹理

1997年の初来日から GI制覇を夢見ていた

——今春の短期免許での来日では大活躍でしたね。カムニャックでオークスを制し、悲願であった日本のGI初勝利を達成されました。

信じられないような経験でしたね。フローラSでも騎乗して勝っていたので、オークスが大きな目標であることは分かっていました。日本のGIは常に競争が激しく、勝つことは非常に難しいのですが、カムニャックを信じて乗っていました。全体を通していい走りをしてくれましたし、最後の直線で促した時に素晴らしい反応でした。友道先生と一緒に成功を取めることができ、非常に嬉しかったです。

——1997年11月23日の初騎乗以来、28年かけての達成となりました。

1997年にカイトノでジャパンCに遠征してきた時、日本の競馬ファンの素晴らしさを実感したんです。たくさんファンが競馬場に訪れるGIで優勝し、大きなスタンドの前で表彰されることを夢見ていました。そして、ついにその夢が叶いました。

——51歳4カ月での勝利となり、オークス史上最年長勝利記録を更新されました。

それは言わないで！ というのは冗談ですが（笑）、武豊騎手もその後に宝塚記念を勝ちましたよね。経験を活かしてベストを尽くせば、年齢はただの数字です。最年長の勝利騎手となったことを誇りに思っています。

写真で辿る シュタルケ騎手と日本競馬



1997年、初来日当時のシュタルケ騎手

日本馬ヒルノダムール、ナカヤマフェスタも参戦した2011年の凱旋門賞をデインドリームで勝利。ドイツ人騎手としては初めての快挙となった



I.Terashima



1997年のジャパンCにカイトノで参戦し、4着。当時から日本の競馬ファンの印象が強く心に残ったという



2013年3月23日の阪神第5Rをベツラヴォーチェで制し、JRA初勝利を挙げた

——カムニャックはどんな馬でしょうか。

非常に強い牝馬で、大きなストライドと強い精神力を備えています。牡馬のようなところもあり、将来性を感じます。ブエナビスタやジェンティルドナのような馬になれる素質があると思います。オークスの勝利をもたらしてくれた彼女のことを愛していますし、これからも活躍してくれることを願っています。

親日家ジョッキーが見た 日本競馬の進化

——オークスの前の週にはJRA通算100勝も達成されました。ビザンチンドリームで2着に食い

込んだ天皇賞（春）も印象的でした。

本当に素晴らしい3カ月でしたね。日本で100勝を積み重ねることができて嬉しく思います。ビザンチンドリームは昨年の菊花賞で騎乗した際、最後のコーナーで少し苦勞しスムーズなレースができませんでした。彼には非常に大きな可能性を感じていたので天皇賞では自信を持って騎乗し、完璧なレースができました。いずれGIを勝てる馬だと思っています。

——大の親日家と伺っていますが、短期免許期間中のプライベートな時間はどう過ごしていましたか。

いろんな所を観光しました。京都、天橋立、広島、富士山など多くの場所に出かけました。日本の



4度目の出場となった2013年のワールドスーパージョッキーズシリーズでは3位に入った(右)



JRAでの重賞初制覇は2014年のマイルスC。騎乗馬は3番人気のワールドエースだった



2016年のスプリングSをマウントロブソンとのコンビで優勝。同馬に初の重賞タイトルをもたらした



2017年には12番人気のジョーストリクトリでニュージーランドTを勝利。内ラチ扱いから抜け出す巧みなエスコートだった



2025年は天皇賞(春)でビザンチンドリームに騎乗。直線で大外から強烈な末脚で迫るも、アタマ差で惜しくも2着(右)



今年のオークスではカムニャックに騎乗し、直線で差し切ってJRA・GI初制覇。フローラSからの連勝で戴冠を果たした

アンドレアシュ・シュタルケ Andrasch Starke

1974年1月4日、ドイツ生まれ。89年にアマチュアジョッキーとして騎手キャリアをスタート。97年のダルマイヤー大賞でGI初制覇を果たす。翌98年にはドイツダービーを初優勝。デインドリームとのコンビでは、2011年の凱旋門賞、12年のキングジョージVI世&クイーンエリザベスSを制した。ドイツダービーは通算8勝を挙げており、ドイツ年間リーディングにも通算10回輝いている。JRAでは97年に初騎乗し、同年のジャパンCでは4着に入る。13年以降は短期騎手免許でたびたび来日。今年はカムニャックでオークスを勝利し、JRA・GI初制覇を達成した。



春の天皇賞の2週後となる5月18日の京都第11レースで、JRA通算100勝を達成

景色は本当に美しく、素晴らしいですね。栗東近辺では石山寺も訪れましたね。こちらまでよく来れました。

——話を競馬に戻しましょう。JRAで初めて騎乗された年のことを覚えていますか？ また、その後は非常に長く来日されていますが、当時と比べて日本の競馬は変わりましたか。

1997年ですね。カイトノが初めてジャパンCに遠征した時に乗せてもらい、4着でした。マイケル・キネンがビルサドスキーで勝ったんですよね。日本の馬の質は毎年高くなっていますし、今や世界中で傑出したパフォーマンスを見せています。ですが、私自身はもともと日本の馬の質は高かったと思っています。初めて来日した1997年でさえ、で

す。国際的なレースでの成績も抜群で、海外の馬が日本の馬を負かすのは非常に大変です。今、世界中の人が日本の競馬業界や生産に関わりたがっていますよ。

——日本の競馬の良い点はどこだと思いますか。

最高の馬に乗れることです。例えば、イクイノックスとかね。

前身のWSJSでは4度出場し 2013年には表彰台に

——ワールドオールスタージョッキーズの前身であるワールドスーパージョッキーズシリーズには4度出場。2013年には3位となり、表彰されました。

以前は阪神競馬場で行われていましたよね。友人を連れていって楽しい時間を過ごしたことを覚えていますよ。2013年はリチャード・ヒューズ騎手が優勝したんですよね。そして、パット・スマレン騎手が2位でした。彼は残念ながら病気で亡くなってしまったけれど、非常に素晴らしいジョッキーでした。このシリーズは世界中から集まったワールドクラスのスーパージョッキーたちと会うことができ、ホテルに滞在し、セレモニーを楽しむことができるので、いつも楽しみにしています。香港やドバイ、南アフリカなどの騎手招待にも選出されたことがありますが、日本のこのシリーズが一番のお気に入りです。

——長くジョッキーを続けて素晴らしい実績も積

み重ねてこられました。今後の目標などはありませんか。

とにかく騎乗を続け、健康でいること。それがすべてです。そして、ダービーをまた勝てばうれしいです。自国ではこれまでに8度勝たせてもらっていますが、もう一度勝ちたいという気持ちがあります。勝つのが難しいレースですが、それくらい特別なものです。

——最後に日本のファンへのメッセージをお願いします。

私にとって、日本のファンは世界でも最高のファンです。日本のファンは競馬を本当に楽しんでいて、私たちは誇りに思わないといけません。いつもたくさんの応援をありがとうございます。

